

- ガイドライン 182-187, 総合医学社, 2012.
- 細井孝之 第1章 高齢者に多い疾患に対する薬の使い方 1) 骨粗鬆症 (Q13~Q16) 高齢者の薬よろずお助け Q&A100 39-50, 羊土社, 2012.
 - 細井孝之 第4章 ロコモティブシンドロームと遺伝子多型性 ロコモティブシンドロームと栄養 55-64, 建帛社 2012.
 - 細井孝之 VI 骨粗鬆症の治療 2. 骨粗鬆症の治療薬 6) その他 (カルシトニン、ビタミンK、イプリフラボン) 骨粗鬆症診療ハンドブック改訂5版, 320-330, 医薬ジャーナル社, 2012.
 - 細井孝之 4. 骨粗鬆症 4.1 骨粗鬆症の概念と分類. 高齢者用食品の開発と展望 23-28, 株式会社シーエムシー出版 2012.
 - 細井孝之 A. 骨粗鬆症の評価と指針 1. 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版」の概要とおもな改訂点 新しい骨粗鬆症治療, 2-4, 診断と治療社 2012.
 - 細井孝之 第13章 骨・運動器疾患 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野老年学 第3版 146-158, 医学書院 2012.
 - Kozakai R, Ando F, Kim HY, Rantanen T, Shimokata H. Regular exercise history as a predictor of exercise in community-dwelling older Japanese people. J Phys Fitness Sports Med 1(1): 1-8, 2012.
 - 松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 地域在住中高齢者の膝関節変形と膝伸展筋力との関連 Osteoporosis Japan 20(2): 254-256, 2012.
 - 安藤富士子、今井具子、加藤友紀、大塚礼、松井康素、竹村真里枝、下方浩史 血清カロテノイドと2年後の骨粗鬆症/骨量減少発症リスクに及ぼす影響 日本未病システム学会雑誌 18(2): 89-92, 2012.
 - 下方浩史、安藤富士子 日常生活機能と骨格筋量、筋力との関連 サルコペニア—研究の現状と未来への展望 日老会誌 49(2): 195-198, 2012.
 - 下方浩史、安藤富士子 疫学研究からのサルコペニアとそのリスク—特に栄養との関連 日本老年医学会雑誌 49(6): 721-725, 2012.
 - 下方浩史、安藤富士子 検査基準値の考え方—医学における正常と異常— 日本老年医学会雑誌 (印刷中)
 - 幸篤武、安藤富士子、下方浩史 サルコペニア、虚弱の疫学—日本人データから Bone Joint Nerve 3(1): 67-74, 2013.
 - 下方浩史、安藤富士子 健康長寿社会を築く長期縦断疫学研究. 日本未病システム学会雑誌 (印刷中)
 - 大塚礼、下方浩史、安藤富士子 高齢者の栄養に関する疫学研究 Geriatric Medicine (印刷中)
 - 幸篤武、安藤富士子、下方浩史 わが国におけるサルコペニアの診断と実態—日本人における診断 サルコペニア—その成因と栄養・運動 (葛谷雅文、雨海照祥編)、医歯薬出版、東京 (印刷中)
 - 加藤友紀、安藤富士子、下方浩史 サルコペニアの栄養ケア BCAA サルコペニア—その成因と栄養・運動 (葛谷雅文、雨海

- 照祥変)、医歯薬出版、東京 (印刷中)
- 幸篤武、安藤富士子、下方浩史 罹患の実態について教えてください サルコペニア Q&A～高齢者における筋量減少・筋力低下にどう対応するべきか? (関根里恵、小川純人編)、フジメディカル出版、東京 (印刷中)
 - 安藤富士子、下方浩史 サルコペニアを起こす高齢者の特徴は? サルコペニア Q&A～高齢者における筋量減少・筋力低下にどう対応するべきか? (関根里恵、小川純人編)、フジメディカル出版、東京 (印刷中)
 - 橋本有弘 骨格筋幹細胞—最新基礎知見を踏まえて Bone Joint Nerve 3(1): 21-26, 2013.
 - Kojima T, Akishita M, Nakamura T, Nomura K, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. Polypharmacy as a risk for fall occurrence in geriatric outpatients. Geriatr Gerontol Int. 12: 425-430, 2012.
 - Kojima T, Akishita M, Kameyama Y, Yamaguchi K, Yamamoto H, Eto M, Ouchi Y. Factors associated with prolonged hospital stay in a geriatric ward of a university hospital in Japan. J Am Geriatr Soc. 60: 1190-1191, 2012.
 - Mori S, Kishi M, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Konishi T, Maruyama N. and Shigemoto K. 3,4-diaminopyridine improves neuromuscular transmission in a MuSK antibody-induced mouse model of myasthenia gravis. J. Neuroimmunol. 245: 75-78, 2012.
 - Miyazaki T, Iwasawa M, Nakashima T, Mori S, Shigemoto K, Nakamura H, Katagiri H, Takayanagi H, Tanaka S. Intracellular and extracellular ATP coordinately regulate the inverse correlation between osteoclast survival and bone resorption. J. Biol. Chem. 287: 37808-23, 2012.
 - 森秀一、山田茂、秋好沢諭、福永大地、重本和宏 運動トレーニングは老化による神経筋シナプスの変性を予防できるか 健康医科学研究助成論文集 27: 148-156, 2012.
 - 福永大地、久保幸穂、森秀一、宮崎剛、樋上賀一、重本和宏 老齢マウスの筋線維タイプ特異的な筋萎縮の病態解明 基礎老化研究 36: 47-49, 2012. (日本基礎老化学会大会奨励賞)
 - 重本和宏、福永大地、森秀一 筋肉の老化 Clin. Calcium 23: 23-28, 2013.
 - 森秀一、重本和宏 神経筋接合部の維持機構と筋萎縮 医学のあゆみ 244: 696-703, 2013.
 - 重本和宏、福永大地、森秀一 筋肉と神経—最新基礎知見を踏まえて Bone Joint Nerve 3(1): 27-31, 2013.
 - 田中千晶、藤原佳典、安永正史、桜井良太、齋藤京子、金憲経、深谷太郎、他 6 人: 複合健康増進プログラムが地域在住高齢者の日常的な身体活動量へ与える影響—無作為化比較試験による検討— 日老医誌 49: 372-374, 2012.
 - 金憲経 地域在住高齢女性におけるサルコペニアとロコモティブシンドローム Jpn J Rehabil Med 49(9): 596-599, 2012.
 - 鈴木隆雄、金憲経 サルコペニアと骨粗

- 鬆症 Med Rehabil 150: 12-18, 2012.
- 金憲経 地域在住高齢者におけるサルコペニア予防のための包括的介入 日未病システム会誌 18: 66-73, 2012.
 - 金憲経 虚弱・サルコペニアへの介入研究 日老医誌 49: 726-730, 2012.
 - 金憲経 筋肉への運動や栄養による介入—現状と今後と展望— Bone Joint Nerve 3(1): 89-95, 2013.
 - 金憲経 身体活動の指導からみた高齢者支援—老年症候群の早期予防のための支援— 大阪体育学研究 51: 41-46, 2013.
 - Kim MJ, Kim H. Accuracy of segmental multi-frequency bioelectrical impedance analysis for assessing whole-body and appendicular fat mass and lean soft tissue mass in frail women aged 75 years and older. Eur J Clin Nutr; Doi:10.1038/ejcn.2013.9: 1-7, 2013.
 - Yoshimatsu T, Yoshida D, Shimada H, Komatsu T, Harada A, Suzuki T. The relation between near-infrared spectroscopy, and subcutaneous fat and muscle thickness measured by ultrasonography in Japanese community-dwelling elderly. Geriatr Gerontol Int 2012. [Epub ahead of print]
 - Hashidate H, Shimada H, Shiomi T, Shibata M, Sawada K, Sasamoto N. Measuring indoor life-space mobility at home in frail older adults with difficulty to perform outdoor activities. J Geriatr Phys Ther. 2012. [Epub ahead of print]
 - Shimada H. Glucose uptake during exercise in skeletal muscles evaluated by positron emission tomography, Chia-Hung Hsieh (Ed.), Positron Emission Tomography - Current Clinical and Research Aspects. InTech Croatia pp319-336, 2012.
 - 大矢敏久、内山靖、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、吉田大輔、上村一貴、鈴木隆雄 手段的日常生活活動の自立した地域在住高齢者における転倒恐怖感に関連する要因の検討 日本老年医学会雑誌 49(4): 457-462, 2012.
 - 橋立博幸、島田裕之、潮見泰藏、笹本憲男 高齢者における筋力増強運動を含む機能的トレーニングが生活機能に及ぼす影響 理学療法学 39: 159-166, 2012.
 - 水本淳、島田裕之、井平光、野村知広、古名丈人、鈴木芽久美 ステップエルゴメーターのアイソキネティック運動におけるピークパワーと筋活動特性との関連 理学療法科学 27(4): 411-415, 2012.
 - 島田裕之、吉田大輔 サルコペニア診断のための筋量、筋力の評価法 Bone Joint Nerve 3(1): 61-66, 2013.
 - 島田裕之 Part-6 その他の介入法: 運動. 葛谷雅文・雨海照祥(編) 栄養・運動で予防するサルコペニア 医歯薬出版株式会社 東京 pp134-139, 2013.
 - Atsushi Araki, Koichi Kozaki et al and the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Study Group : Long-term multiple risk factor interventions in Japanese elderly

- diabetic patients: The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial—study design, baseline characteristics and effects of intervention. *Geriatr Gerontol Int* 12(Suppl.1): 7-17, 2012.
- Atsushi Araki, Koichi Kozaki et al and the Japanese Elderly Intervention Trial Research Group: Non-high-density lipoprotein cholesterol: an important predictor of stroke and diabetes-related mortality in Japanese elderly diabetic patients. *Geriatr Gerontol Int* 12(Suppl.1): 18-28, 2012.
 - Kenji Toba, Kumiko Nagai, Sayaka Kimura, Yukiko Yamada, Ayako Machida, Akiko Iwata, Masahiro Akishita and Koichi Kozaki. New dorsiflexion measure device: A simple method to assess fall risks in the elderly. *Geriatr Gerontol Int* 12(3): 563-564, 2012.
 - Nagai K, Akishita M, Shibata S, Kobayashi Y, Yamada Y, Kimura S, Machida A, Toba K, Kozaki K. Relationship between testosterone and cognitive function in elderly men with dementia. *J Am Geriatr Soc* 60: 1188-9, 2012.
 - Akishita M, Ishii S, Kojima T, Kozaki K, Kuzuya M, Arai H, Arai H, Eto M, Takahashi R, Endo H, Horie S, Ezawa K, Kawai S, Takehisa Y, Mikami H, Takegawa S, Morita A, Kamata M, Ouchi Y, Toba K. Priorities of healthcare outcomes for the elderly. *J Am Med Dir Assoc*, in press.
2. 学会発表
- 原田敦 どのような薬物治療で骨折予防が可能か: ビスフォスフォネートが第一選択である第83回日本整形外科学会学術総会、東京、2010年5月28日
 - 遠藤直人、中村利孝、井樋栄二、青柳潔、北潔、原田敦、山本智章、中野哲雄、萩野浩、豊島良太 加齢にともなう運動器疾患の病態解明と抗加齢療法の開発 第83回日本整形外科学会学術総会、東京、2010年5月28日
 - 原田敦、松井康素、酒井義人、竹村真里枝、寺部靖人、飛田哲朗、徳田治彦 介護施設高齢者の転倒要因 第52回日本老年医学会学術集会、神戸、2010年6月25日
 - 原田敦、松井康素、竹村真里枝、寺部靖人、飛田哲朗、徳田治彦、奥泉宏康、長屋政博介護におけるヒッププロテクター効果の検証 第52回日本老年医学会学術集会、神戸、2010年6月25日
 - 原田敦、松井康素、竹村真里枝、寺部靖人、飛田哲朗、徳田治彦、奥泉宏康、長屋政博介護におけるヒッププロテクター効果の検証 第52回日本老年医学会学術集会、神戸、2010年6月25日
 - 原田敦 田中英一. 転倒・骨折のバイオメカニクスと高齢者の運動訓練 第36回日本整形外科スポーツ医学学術集会、横浜、2010年9月12日
 - 原田敦 転倒予防の効果と限界 Meet the Expert Session, 大阪、2010年10月21日
 - 原田敦 骨粗鬆症における発症と骨折予防 第12回日本骨粗鬆症学会、大阪、2010年10月21日

- ・竹村真里枝、松井康素、原田敦、安藤富士子、下方浩史 「歩けば骨は強くなる？」—地域住民における一日歩数と骨密度との関連— 第 83 回日本整形外科学会学術総会、東京、2010 年 5 月 27 日
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 膝関節 Xp 変形程度と膝関節痛—地域在住中高年者対象大規模コホートでの性・年代別比較 第 83 回日本整形外科学会学術総会、東京、2010 年 5 月 29 日
- ・下方浩史 老化に関する長期縦断疫学研究—老化と老年病の予防を目指して 第 3 回東京アンチエイジングアカデミー、東京、2010 年 6 月 5 日
- ・下方浩史 国立長寿医療センター・老化に関する長期縦断疫学研究 (NILS-LSA) からみえてくるもの 第 52 回日本老年社会学会市民公開講座、大府、2010 年 6 月 18 日
- ・飛田哲朗、原田敦、松井康素、酒井義人、竹村真里枝、寺部靖人、下方浩史 Sarcopenia (筋肉減少症) の脊椎骨折患者における現状 第 52 回日本老年医学会学術集会・総会、神戸、2010 年 6 月 26 日
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 変形性膝関節症変化と身体機能の関連 第 52 回日本老年医学会学術集会・総会、神戸、2010 年 6 月 26 日
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 変形性膝関節症変化と身体機能の関連 第 2 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、宜野湾市、2010 年 7 月 2 日
- ・安藤富士子、下方浩史 地域在住中高年者の血清カロテノイドと骨密度に関する横断的検討 第 32 回日本臨床栄養学会、2010 年 8 月 28 日、名古屋
- ・小坂井留美、道用亘、金興烈、安藤富士子、下方浩史 高齢期までの運動習慣の継続と体力との関連 第 65 回日本体力医学会大会、2010 年 9 月 18 日、市川
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 骨量減少および骨粗鬆症の発症リスクに及ぼす下肢筋力の影響—地域在住中高年者を対象とした疫学縦断調査より 第 11 回日本骨粗鬆症学会、2010 年 10 月 21 日、大阪
- ・安藤富士子、北村伊都子、金興烈、李成喆、下方浩史 潜在性慢性炎症と中高年者のサルコペニアに関する縦断的検討 第 17 回日本未病システム学会学術総会、2010 年 11 月 13 日、那覇
- ・李成喆、金興烈、森あさか、安藤富士子、下方浩史 地域在住中高年者の下肢筋力と重心動揺の関連に関する横断的検討 17 回日本未病システム学会学術総会 第 17 回日本未病システム学会学術総会、2010 年 11 月 13 日、那覇
- ・金興烈、李成喆、森あさか、安藤富士子、下方浩史 歩行速度 (無次元速度) の性差と年代差に関する考察 第 17 回日本未病システム学会学術総会、2010 年 11 月 13 日、那覇 (研究奨励賞)
- ・橋本有弘、柳澤美智子 第 43 回日本発生物学会大会、2010 年 5 月、京都
- ・橋本有弘、岡村菊夫、塩見浩介 泌尿器科再建再生研究会、2010 年 6 月 19 日、札幌

- ・塩見浩介、橋本有弘 第33回日本分子生物学会年会、2010年12月、神戸
- ・秋下雅弘(シンポジウム) アンドロゲンの血管作用とその性差 日本性差医学・医療学会、2011.2.6、下関
- ・秋下雅弘(シンポジウム) 性ホルモン; Vasoprotective action of androgen and the role of androgen receptor 日本血管生物医学学会、2010.12.1、大阪
- ・秋下雅弘(シンポジウム) テストステロンと生活習慣病; テストステロンは寿命を規定する? 日本Men's Health医学会、2010.11.27、東京
- ・Akishita M (Symposium). Frailty in older men - testosterone is the key for care. Men's Health World Congress, Nice, France, 2010.10.30
- ・秋下雅弘(五島雄一郎賞受賞講演) Sex hormones and atherosclerosis. 日本動脈硬化学会総会・学術集会、2010.7.16、岐阜
- ・秋下雅弘(シンポジウム) 認知症予防へのアプローチ～生活習慣病の観点から～ 3. 高血圧管理と認知症予防 日本老年医学会学術集会、2010.6.25、神戸
- ・秋下雅弘(シンポジウム) 男性ホルモン研究最前線 今年の話 アンドロゲンによるeNOS活性化機構 日本抗加齢医学会総会、2010.6.12、京都
- ・森秀一、久保幸穂、秋好沢諭、山田茂、宮崎剛、重本和宏 筋は逆行性シグナルにより筋・運動神経を維持する 第33回日本基礎老化学会大会、2010.6.18、名古屋
- ・Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Shigemoto K. New strategy to treatment of myasthenia gravis caused by MuSK antibodies using a synchronized experimental animal model. 第33回日本神経科学学会大会、2010.9.3、神戸
- ・Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Shigemoto K. Strategy to treatment of myasthenia gravis caused by MuSK antibodies using a synchronized experimental animal model. Society for Neuroscience 2010. 2010.11.17, San Diego
- ・原田敦 認知症と転倒・予防と対策 第5回知多地域認知症看護・介護研修会、2011年5月21日、半田
- ・原田敦 骨強度と外力からみた骨折予防戦略 三重県骨粗鬆症治療戦略セミナー 2011年6月1日、津
- ・原田敦 コモティブシンドロームとサルコペニア. 第53回日本老年医学会学術集会、2011年6月16日、東京
- ・原田敦 エルデカルシトール-第III相臨床試験結果について- 骨粗鬆症学術講演会、2011年7月2日、名古屋
- ・原田敦 高齢期の骨折予防-骨粗鬆症と転倒の両面から考える- 第325回緑医学研究会、2011年7月26日、名古屋
- ・原田敦 骨粗鬆症・転倒・骨折. 2011年老年医学セミナー、2011年8月4日、軽井沢
- ・原田敦 転倒外力から考える骨折予防-プロテクターなどの効果- 第67回久留米大学TQM研修会、2011年8月23日、久留米
- ・原田敦 サルコペニア OtsukaOrthopedic Update Symposium 2011

- スポーツ・運動器障害治療戦略講演会
四肢の ADL 改善を目指して、2011 年 9 月 3 日、東京
- ・原田敦 骨折予防の新戦略—骨強度と外力から— 北信整形外科医会教育研修会、2011 年 9 月 13 日、長野
 - ・原田敦 ビタミン D と転倒・骨折予防 教育講演、第 8 回転倒予防医学研究会研究集会、2011 年 10 月 2 日、東京
 - ・原田敦 筋肉減少症（サルコペニア）新しい診断基準 第 8 回転倒予防医学研究会研究集会、2011 年 10 月 2 日、東京
 - ・原田敦、長屋政博、絆川牧子、加納周美、小山央 薄型ヒッププロテクターの初期コンプライアンス試験 第 8 回転倒予防医学研究会研究集会、2011 年 10 月 2 日、東京
 - ・原田敦 骨粗鬆症と転倒骨折 豊田加茂整形外科医会学術講演会、2011 年 10 月 13 日、豊田
 - ・原田敦、飛田哲朗 筋肉減少症（サルコペニア）の観点から 第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会、2011 年 10 月 21 日、群馬
 - ・原田敦 サルコペニアの現状 第 13 回日本骨粗鬆症学会 骨ドック・健診分科会、2011 年 11 月 4 日、神戸
 - ・原田敦 ヒッププロテクターの効用 —臨床試験から— 生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会 2011、2011 年 11 月 5 日、東京
 - ・原田敦 骨粗鬆症：骨折リスク診断と骨折予防介入 知多半島骨粗鬆症フォーラム、2011 年 11 月 10 日、半田
 - ・原田敦 高齢者の骨折の現状とその予防 第 98 回三重県臨床整形外科医会、2011 年 11 月 13 日、津
 - ・原田敦 高齢者の骨折予防—骨粗鬆症と転倒の両面から— 県北地区骨代謝セミナー、2011 年 12 月 3 日、秋田県大館市
 - ・原田敦 足腰きたえて長生きだ！元気のヒケツ転倒予防 テレビ出演 カラダのキモチ 第 289 回、放送日 2012 年 1 月 29 日（日）あさ 7:00-7:30、東京
 - ・原田敦 高齢者の運動器症候群 名古屋大学医学部付属病院地域医療センター 愛知ケアマネ研究会、2012 年 2 月 22 日、名古屋
 - ・原田敦 転倒外力から考える骨折予防 骨強度補強＋外力軽減 人体損傷評価分科会・第 3 回研究会日本実験力学学会 人体損傷評価分科会、2012 年 3 月 13 日、名古屋
 - ・土井剛彦、島田裕之、牧迫飛雄馬、吉田大輔、伊藤健吾、加藤隆司、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄 高齢者における歩行指標は脳萎縮と関係するのか？—MRI と 3 軸加速度計を用いた検討— 第 46 回日本理学療法学会大会、2011 年 5 月 27 日、宮崎
 - ・吉田大輔、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、伊藤健吾、加藤隆司、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄 地域高齢者における内側側頭葉の脳萎縮と日常生活活動との関係 第 46 回日本理学療法学会大会、2011 年 5 月 27 日、宮崎
 - ・下方浩史、安藤富士子 日常生活機能と骨格筋量、筋力との関連、若手企画シンポジウム 2 「サルコペニア—研究の現状

- と未来への展望」 第 53 回日本老年医学会学術集会、2011 年 6 月 16 日、東京
- 竹村真里枝、松井康素、原田敦、安藤富士子、下方浩史 地域在住中高者年の骨粗鬆症有病率と実際の治療率の検討 第 53 回日本老年医学会学術集会、2011 年 6 月 16 日、東京
 - 松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 握力による骨量減少および骨粗鬆症の発症の予測—地域在住中高年者を対象とした疫学縦断研究 第 53 回日本老年医学会学術集会、2011 年 6 月 16 日、東京
 - 洪英在、岡村菊夫、高橋龍太郎、下方浩史、児玉寛子、遠藤英俊、井藤英喜 高齢者医療における優先度調査—Web 調査における一般、医師、看護師の相違 第 53 回日本老年医学会学術集会、2011 年 6 月 16 日、東京
 - Kozakai R, Ando F, Kim HY, Lee SC, Nishita Y, Tange C, Shimokata H. The effect of depression on the participation in the exercise habits in community-dwelling Japanese older people. The 16th Annual Congress of the European College of Sports Science, 9th, Jul, Liverpool.
 - 安藤富士子、下方浩史 血清カロテノイドが骨密度に与える影響～酸化要因・抗酸化要因に着目した大規模縦断研究～果樹試験研究推進協議会委託試験研究課題成果発表会、2011 年 7 月 7 日、東京
 - Ando F, Takemura M, Matsui Y, Shimokata H. Prevalence and Consultation Rates of Life-Style Related Diseases in Japanese Middle-Aged and Elderly Women. IEA World Congress of Epidemiology, 7-11, Aug, 2011. Edinburgh.
 - Doi T, Shimada H, Makizako H, Yoshida D, Shimokata H, Ito K, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. Whole Brain Atrophy and Spatiotemporal Gait Parameters during Dual-task Gait. Alzheimer's Association International Conference, Paris, July 19, 2011.
 - Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in community-dwelling older adults. Alzheimer's Association International Conference, Paris, July 19, 2011.
 - Shimokata H. Longitudinal study. Japan International Cooperation Agency (JICA) lecture, Obu, Sep 1, 2011.
 - Ando F, Kato Y, Otsuka R, Imai T, Matsui Y, Takemura M, Shimokata H. The effects of serum carotenoids on bone mineral density in community -dwelling Japanese middle-aged and elderly women. The 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology, Melbourne, October 26, 2011.
 - 金興烈、李成喆、幸篤武、森あさか、安藤富士子、下方浩史 中高齢者の相対歩幅と歩行速度（無次元速度）に関する研究 日本未病システム学会
 - 安藤富士子、今井具子、加藤友紀、大塚礼、松井康素、竹村真里枝、下方浩史 血清カロテノイドと 2 年後の骨粗鬆症/骨

- 量減少発症リスク 日本未病システム学会
- 向敦史、橋本有弘 第 34 回日本分子生物学会年会、2011 年 12 月、横浜
 - Eto M. Appropriate decision-making in geriatric medicine: balancing effectiveness and safety in antithrombotic therapy for old patients. International Association of Gerontology and Geriatrics Meeting 2011, 2011.10.26, Melbourne, Australia.
 - 森秀一、重本和宏 MuSK と Dok-7 の相互作用は神経筋シナプスの維持に重要である第 66 回日本体力医学会大会、2011.9.17、下関
 - 重本和宏 サルコペニアのメカニズム解明に向けて 第 33 回日本基礎老化学会シンポジウム、2011.10.8-9、野田
 - Mori S, Kubo S, Yamada S, Miyazaki T, Shigemoto K. Distinct mechanisms between divalent and monovalent MuSK antibodies involved with dysfunction of MuSK leading to myasthenia gravis. Society for Neuroscience 2011, 2011.11.15 Washington, D.C.
 - Shigemoto K. A new synchronized model of myasthenia gravis caused by anti-MuSK antibodies. *International Conference on Nervous System Autoimmunity*. Bangalore, India January 27-30, 2012. (招待講演)
 - Miyazaki T, Mori S, Shigemoto K., Larsson N, Nakashima T, Takayanagi H, Tanaka S. Maintenance of mitochondrial DNA copy number is essential for osteoclast survival and bone resorption. 1st Bio-Rheumatology International Congress Tokyo 8th GARN meeting Tokyo. 2011.11.14-16. Maihama.
 - 渡辺修一郎、兔澤恵子、藤原佳典、安永正史、桜井良太、齋藤京子、金美芝、金憲経、新開省二、田中千明晶 3 カ月運動訓練が運動及び入浴前の血圧変動に及ぼす影響 第 53 回日本老年医学会学術、東京. 6 月 15-17 日、2011
 - 金憲経、吉田英世、吉田祐子、齋藤京子、小林成実、平野造彦、島田裕之、鈴木隆雄 地域在住高齢者における膝痛の実態及び生活機能との関連性について 第 53 回日本老年医学会学術、東京. 6 月 15-17 日、2011
 - 金憲経 サルコペニア予防のための包括的介入 第 53 回日本老年医学会学術、東京、6 月 15-17 日、2011
 - Kim H., Yoshida H, Yoshida Y, Saito K, Kojima N, Kim M, Hirano H, and Suzuki T. Prevalence and factors associated with urinary incontinence in community-dwelling elderly Japanese men. Annual Meeting of the International Continence Society, Glasgow, UK, August 29-September 2, 2011.
 - 齋藤京子、藤原佳典、桜井良太、金憲経、他 10 人 温泉施設を活用した複合的介入プログラム“すぷりんぐ” (1) -メタボ予防効果の検証- 第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、10 月 19-21 日、2011
 - 桜井良太、藤原佳典、金憲経、齋藤京子、他 11 人 温泉施設を活用した複合的介入プログラム“すぷりんぐ” (2) -介護予防

- 効果の検証－ 第70回日本公衆衛生学会、秋田、10月19-21日、2011
- 深谷太郎、藤原佳典、金憲経、齋藤京子、他11人 温泉施設を活用した複合的介入プログラム「すぷりんぐ」－介入終了一年後の状況－ 第70回日本公衆衛生学会、秋田、10月19-21日、2011
 - 金憲経、小島成実、齋藤京子、吉田祐子、吉田英世、平野浩彦、金美芝、山城由華吏、須藤元喜、鈴木隆雄 地域在住膝痛高齢者を対象とした運動介入の効果検証 (1)－体力変化介入の効果検証(1)－体力変化 第70回日本公衆衛生学会、秋田、10月19-21日、2011
 - 小島成実、金憲経、山城由華吏、須藤元喜、吉田英世、吉田祐子、金美芝、齋藤京子、平野浩彦、鈴木隆雄 運動介入が地域在住膝痛高齢者のQOLに及ぼす効果 (2)－SF-36を用いた評価－ 第70回日本公衆衛生学会、秋田、10月19-21日、2011
 - 須藤元喜、山城由華吏、小島成実、金憲経 地域在住膝痛高齢者を対象とした運動介入の効果検証(3)－歩行解折を中心－ 第70回日本公衆衛生学会、秋田、10月19-21日、2011
 - 金憲経 サルコペニアとロコモティブシンドローム 第48回日本リハビリテーション医学会学術集会、千葉、11月2-3日、2011
 - 金憲経 サルコペニア予防のための包括的介入 第18回日本未病システム学会学術総会、名古屋、11月19-20日、2011
 - Kim H. Prevention strategy for sarcopenia: Effects of exercise and nutrition supplementation. The 3rd Asian International Seminar for Geriatrics and Gerontology. Seoul, Korea, January 14, 2012
 - 神崎恒一 (パネルディスカッション 介護予防: 現状・課題と新たな方向性) 虚弱の概念と転倒予防 第27回日本老年学会総会、2011.6.15、東京
 - 神崎恒一 シンポジウム 老年症候群と総合的機能評価 第53回日本老年医学会学術集会、2011.6.16、東京
 - 秋下雅弘、江頭正人、荒井秀典、神崎恒一、葛谷雅文、荒井啓行、高橋龍太郎、江澤和彦、川合秀治、鳥羽研二 高齢者医療の優先順位に関する意識調査 第53回日本老年医学会学術集会、2011.6.17、東京
 - 田中政道、井上慎一郎、長谷川浩、神崎恒一 高齢者における虚弱(frailty)の評価 第53回日本老年医学会学術集会、2011.6.17、東京
 - Koichi Kozaki, Hitomi Koshihara, Satoru Mochizuki, Kumiko Nagai. Evidence of the association of arterial stiffness and inflammation with cognitive dysfunction in older adults. 第43回日本動脈硬化学会学術集会、2011.7.16、札幌
 - 神崎恒一 高齢患者における筋肉減少症(サルコペニア)と転倒予防 転倒予防医学研究会「第8回研究集会」2011.10.2、東京
 - Koichi Kozaki. Current Status of Medical Treatment in Long-term Care Facilities in Japan, 9th Asia/Oceania Regional Congress of Geriatrics and Gerontology, Melbourne, AUSTRALIA. 2011.10.26.

- ・中居龍平、山田如子、木村紗矢香、小林義雄、長谷川浩、神崎恒一 ハンカチテスト陽性の認知症患者における機能的近赤外スペクトロスコピー (fNIRS) による脳血流分布の検討 第 30 回日本認知症学会学術集会、2011. 11. 11、東京
- ・木村紗矢香、山田如子、町田綾子、鳥羽研二、神崎恒一 もの忘れ教室の効果－周辺症状と介護負担の検討－ 第 30 回日本認知症学会学術集会、2011. 11. 11、東京
- ・山田如子、木村紗矢香、小林義雄、中居龍平、鳥羽研二、神崎恒一 認知症高齢者における抑うつ因子として家族構成と介護保険サービスが及ぼす影響の検討 第 30 回日本認知症学会学術集会、2011. 11. 11、東京
- ・神崎恒一 (シンポジウム) サルコペニアの疫学・予防と対策. 第 18 回日本未病システム学会学術集会、2011. 11. 19、名古屋
- ・原田敦 サルコペニア(筋肉減少症)の診断と治療の現状－骨粗鬆症性骨折を防ぐために－. 第 1 回長久手整形外科医療連携会、2012 年 4 月 7 日、愛知医科大学
- ・原田敦 骨強度と転倒の両面から骨折リスクを軽減 H24 年度第 1 回香川県臨床整形外科医会学術講演会、2012 年 6 月 12 日、高松市
- ・原田敦 サルコペニアに対する薬物治療の可能性－骨粗鬆症薬の検討から－ 第 54 回日本老年医学会学術集会、2012 年 6 月 28 日、東京
- ・原田敦 骨強度と外力から考える骨粗鬆症性骨折の予防 瑞穂区医師会学術講演会、2012 年 7 月 25 日、名古屋
- ・原田敦 骨折は寿命を縮める？－骨粗しょう症－ 健康ワンダフル テレビ愛知 7:00-7:30 2012 年 7 月 28 日、名古屋
- ・紙田正博、尾野雅哉、山田哲司、五十嵐文子、新飯田俊平、龔建生、原田敦、伊藤研悠、酒井義人 2DICAL を用いた腰部脊柱管狭窄症のプロテオーム解析 第 8 回日本臨床プロテオーム研究会、2012 年 8 月 8 日
- ・原田敦 骨強度と外力から考える骨折予防 愛媛骨粗鬆症治療学術講演会、2012 年 8 月 24 日、愛媛
- ・原田敦 転倒リスクと転倒骨折リスク 第 35 回三河関節外科懇話会、2012 年 9 月 6 日、知立市
- ・久保田怜、根本哲也、伊藤安海、鳥本聡、松浦弘幸、原田敦 転倒時に外力を免ずる材料が骨に与える緩衝性の評価 日本ロボット学会第 30 回記念学術講演会、2012 年 9 月 20 日、札幌
- ・原田敦、松井康素、酒井義人、竹村真里枝、寺部靖人、伊藤定之、細井孝之、徳田 治彦、飛田哲朗、伊藤研悠 サルコペニアに対する活性型ビタミン D 剤の治療効果-筋量増強効果に関する骨粗鬆症患者における検討- 第 14 回日本骨粗鬆症学会、2012 年 9 月 29 日、新潟
- ・原田敦 ためしてガッテン「女性の 5 割が危険領域 謎の足腰フラフラ病！」NHK ためしてガッテン ビタミン D. 2012 年 10 月 3 日
- ・原田敦 高齢者のサルコペニア 第 14 回日本医学会公開フォーラム、2012 年 10 月 20 日、東京

- ・原田敦 転倒骨折リスクとその軽減 第4回富士・富士宮整形外科懇話会、2012年10月23日、富士市
- ・Jian-Sheng Gong、紙田正博、東祥子、伊藤研悠、酒井義人、五十嵐文子、渡辺研、山田哲司、尾野雅哉、原田敦、新飯田俊平 プロテオミクスを基盤とした脊柱管狭窄症肥厚靱帯のタンパク質局在第27回日本整形外科学会基礎学術集会、2012年10月26日、名古屋
- ・渡辺研、酒井義人、伊藤研悠、新飯田俊平、原田敦 腰部脊柱管狭窄症肥厚黄色靱帯由来再銅における転写因子の探索第27回日本整形外科学会基礎学術集会、2012年10月27日、名古屋
- ・原田敦 高齢期の骨折の予防と治療一骨の寿命は延びていますー 運動器の10年・骨と関節の日 市民公開講座、2012年10月29日、名古屋
- ・原田敦 加齢性筋肉減少症（サルコペニア）の臨床 第84回医協メディカルフォーラム「老年医学のパラダイムシフト」、2012年11月17日、名古屋
- ・原田敦 高齢者における転倒による骨折 第25回日本機械学会 バイオエンジニアリング講演会、2013年1月9日、つくば
- ・原田敦 骨と筋肉から考える高齢者の骨折予防 第1回城東ロコモティブ・シンδροーム懇話会、2013年1月30日、東京
- ・原田敦 高齢者における加齢性筋肉減弱現象（サルコペニア）に関する予防対策確立のための包括的研究 平成24年度厚生労働科学研究 長寿科学総合研究及び認知症対策総合研究 成果発表会、2013年2月1日、東京
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 ロコモティブシンδροームのチェック項目の妥当性の検討〜ロコモチェックの有無による各種運動能力の比較 日本整形外科学会、2012年5月9日、京都
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 ロコモティブシンδροームのチェック項目の妥当性の検討〜ロコモチェックの有無による各種運動能力の比較 日本整形外科学会、2012年5月9日、京都
- ・下方浩史 検査基準値の考え方ー医学における正常と異常ーシンポジウム「生活自立を指標とした生活習慣病の検査基準値」 第54回日本老年医学会学術総会、2012年6月27日、東京
- ・杉浦彩子、内田育恵、中島務、新野直明、李成喆、安藤富士子、下方浩史 地域在住中高齢者の難聴と転倒、重心動揺との関連 第54回日本老年医学会学術総会、2012年6月27日、東京
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、小坂井留美、下方浩史 ロコモティブシンδροーム（ロコモ）とサルコペニアの関連 第54回日本老年医学会学術総会、2012年6月27日、東京
- ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、李成喆、下方浩史 地域在住中高齢者の膝関節痛と膝伸展筋力の関連 第4回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会総会、2012年7月19日、宜野湾
- ・下方浩史 中高年者の栄養と運動ー長期縦断疫学研究から シンポジウム「成人

- 向け保健指導とヘルスプロモーション」、第 60 回日本教育医学会記念大会、2012 年 8 月 26 日、筑波
- ・幸篤武、李成喆、小坂井留美、金興烈、安藤富士子、下方浩史 中高年男性における余暇身体活動強度と血清遊離テストステロン濃度の関連 第 67 回日本体力医学会大会、2012 年 9 月 15 日、岐阜
 - ・金興烈、李成喆、幸篤武、小坂井留美、安藤富士子、下方浩史 中高年齢者の歩幅と歩調に影響を与える関連要因 第 67 回日本体力医学会大会、2012 年 9 月 15 日、岐阜
 - ・小坂井留美、安藤富士子、金興烈、李成喆、幸篤武、下方浩史 運動経験のない中高年者における運動習慣開始の要因 第 67 回日本体力医学会大会、2012 年 9 月 14 日、岐阜
 - ・松井康素、竹村真里枝、原田敦、安藤富士子、下方浩史 ロコモティブシンドロームチェック項目と SF36 身体機能との関連 第 14 回日本骨粗鬆症学会、2012 年 9 月 29 日、新潟
 - ・下方浩史 健康長寿社会を築く長期縦断疫学研究、特別講演、第 19 回日本未病システム学会総会、2012 年 10 月 27 日、金沢
 - ・橋本有弘、塩見浩介、永田有希、岡村菊夫 自己筋細胞を用いた尿失禁に対する再生治療の開発：移植細胞供給システムの確立 第 1200 回日本泌尿器科学会総会シンポジウム、2012 年 4 月 22 日、横浜
 - ・橋本有弘 骨格筋幹細胞(筋サテライト細胞)の性質解明：加齢や筋疾患による性質変化から、筋サテライト細胞を標的とした再生医療の可能性を探る 第 29 回筋肉の会、2012 年 9 月 13 日、岐阜
 - ・橋本有弘 骨格筋幹細胞を標的とした再生医療 第 27 回整形外科学会基礎学術集会 シンポジウム、2012 年 10 月 27 日、名古屋
 - ・橋本有弘 ヒト骨格筋幹細胞/前駆細胞の特性と筋疾患 第 35 回日本分子生物学会年会 ワークショップ、2012 年 12 月、福岡
 - ・永田有希、橋本有弘他 炎症性サイトカイン IL-1 \cdot によるヒト筋細胞の分化阻害 第 35 回日本分子生物学会年会、2012 年 12 月、福岡
 - ・塩見浩介、橋本有弘他 グルココルチコイドは、ヒト筋芽細胞の Rb 依存的な細胞周期の停止を解除する 第 35 回日本分子生物学会年会、2012 年 12 月、福岡
 - ・Naohiro Hashimoto and Kosuke Shiomi. Glucocorticoids repress Rb-dependent/stress-induced cell cycle arrest of human myogenic cells: a possible mechanism of glucocorticoid therapy for Duchenne muscular dystrophy *Frontiers in Myogenesis Meeting: Development, Function and Repair of the Muscle Cell* 2012 年 6 月 4-8 日、ニューヨーク
 - ・Naohiro Hashimoto. Recruitment of M-cadherin/p120 Catenin Complex to Lipid Raft is Critical for Establishing Fusion Competence of M the FASEB Science Research Conference on *Skeletal Muscle Satellite & Stem Cells* 2012 年 8 月 12-17 日、ルカ(イタリア)

- 福永大地、森秀一、久保幸穂、中山亮、村瀬尚哉、宮崎剛、樋上賀一、重本和宏 老齡マウスの筋線維タイプ特異的な筋萎縮の病態解明 日本基礎老化学会第35回大会、船橋、2012. 7. 26-27 (日本基礎老化学会大会奨励賞)
- 森秀一、重本和宏 神経筋シナプスの維持メカニズムの解明とサルコペニア研究の展開. 第67回日本体力医学会大会、岐阜、2012. 9. 14-16. •
- Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Hotta H, Desaki J, Kishi M, Konishi T, Maruyama N. and Shigemoto K. A novel murine model of myasthenia gravis with MuSK antibodies. 12th International conference on myasthenia gravis and related disorders, New York, 2012. 5. 21-23.
- Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Hotta H, Desaki J, Kishi M, Konishi T, Maruyama N. and Shigemoto K. Examination of the treatment of myasthenia gravis with anti-MuSK antibodies using an experimental autoimmune animal model. 12th International conference on myasthenia gravis and related disorders, New York, 2012. 5. 21-23.
- 森秀一、久保幸穂、岸雅彦、小西哲郎、重本和宏 抗MuSK抗体陽性重症筋無力症の発症メカニズムに基づく治療薬の検討 第53回日本神経学会学術大会、東京、2012. 5. 22-25
- Mori S, Yamada S, Kubo S, Chen J, Matsuda S, Shudou M, Maruyama N. and Shigemoto K. Divalent and monovalent antibodies lead to dysfunction of MuSK via distinct mechanisms in a rabbit model of myasthenia gravis. 9th Japanese-French Symposium for 'muscular dystrophy' 東京、2012. 9. 7-8
- Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Hotta H, Desaki J, Kishi M, Konishi T, Maruyama N. and Shigemoto K. A novel murine model of myasthenia gravis with MuSK antibodies. 9th Japanese-French Symposium for 'muscular dystrophy' 東京、2012. 9. 7-8
- Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Hotta H, Desaki J, Kishi M, Konishi T, Maruyama N. and Shigemoto K. Examination of the treatment of myasthenia gravis with anti-MuSK antibodies using an experimental autoimmune animal model. 9th Japanese-French Symposium for 'muscular dystrophy' 東京、2012. 9. 7-8
- Mori S, Kubo S, Akiyoshi T, Yamada S, Miyazaki T, Kishi M. and Shigemoto K. Effectiveness of 3,4-diaminopyridine to symptomatic treatment of a MuSK antibody-induced mouse model of myasthenia gravis. 第35回日本神経科学大会、名古屋、2012. 9. 18-21
- Fukunaga T, Kubo S, Mori S, Miyazaki T, Higami Y. and Shigemoto K. Muscle fiber type specific pathology in aging mouse. 第35回日本分子生物学会年会、福岡、2012. 12. 11-14

- Kim H, Suzuki T, Saito K, Kojima N, Kim M, Yoshida Y, Hirano H, Yoshida H. Exercise and thermal therapy for community-dwelling Japanese elderly women with chronic knee pain: A randomized controlled trial. 2012 American Geriatrics Society Annual Scientific Meeting, Seattle, WA, USA, 5.2-5, 2012.
- Kim MJ, Kim H, Kojima N. Exploring Physical Activity Patterns on Body Composition Phenotypes of Sarcopenia and Obesity in Older Adults. The 59th annual meeting of American College of Sports Medicine, San Francisco, 5.28-6.2, 2012.
- 金憲経 サルコペニア・虚弱への介入研究. 第54回日本老年医学会学術集会・総会、東京、6.28-30、2012
- 金憲経 転倒予防と膝痛予防 第155回日本体力医学会関東地方会、横浜、7.7, 2012
- 金憲経 高齢者の元気長寿支援—廃用症候群の早期予防の視点から— 第60回日本教育医学会記念大会、茨城、8.25-26、2012
- Kim H. Intervention for chronic knee pain in community-dwelling elderly Japanese women. The 4th Asian International Seminar for Geriatrics and Gerontology, Tokyo, Japan, 9.14, 2012.
- Kim H. State of research on and tasks of public health organizations for the health of the elderly. International Symposium for Public Health, Seoul, Korea, 10.1, 2012.
- Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Kojima N, Hirano H, Suzuki T. Association between urinary incontinence and pain in community-dwelling elderly women. 42nd Annual Meeting of the International Continence Society, Beijing, China, 10.15-19, 2012.
- 金憲経、小島成実、金美芝、山城由華吏、須藤元喜、吉田英世、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、鈴木隆雄 膝痛高齢者を対象に実施した運動及び温熱療法の効果検証(1) —体力に及ぼす影響— 第71回日本公衆衛生学会総会、山口、10.24-26, 2012
- 小島成実、金憲経、金美芝、山城由華吏、須藤元喜 膝痛高齢者を対象に実施した運動及び温熱療法の効果検証(2) —J KOMによる評価— 第71回日本公衆衛生学会総会、山口、10.24-26、2012
- 須藤元喜、山城由華吏、小島成実、金美芝、金憲経 膝痛高齢者を対象に実施した運動及び温熱療法の効果検証(2) —歩行解析を中心に— 第71回日本公衆衛生学会総会、山口、10.24-26、2012
- Tsutsumimoto K, Doi T, Shimada H, Makizako H, Yoshida D, Anan Y, Uemura K, Suzuki T. The impact of exhaustion on gait smoothness among Japanese older people. Joint World Congress of International Society for Posture and Gait Research and Gait & Mental Function, Trondheim, Norway, June 24-28, 2012.

- ・ 島田裕之、鈴木芽久美、鈴木隆雄、牧迫飛雄馬、吉田大輔、土井剛彦、堤本広大、阿南祐也、上村一貴、朴眩泰 要支援・要介護認定と身体機能 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012年6月28日
- ・ 牧迫飛雄馬、島田裕之、吉田大輔、土井剛彦、堤本広大、阿南祐也、上村一貴、朴眩泰、鈴木隆雄 地域高齢者における転倒と運動機能との関連－認知機能の影響－ 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012年6月28日
- ・ 橋立博幸、島田裕之、古名丈人、潮見泰藏、笹本憲男 3ヶ月間の機能的トレーニングが85歳以上の要支援高齢者の身体機能に及ぼす効果 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012年6月28日
- ・ 林悠太、鈴木芽久美、波戸真之介、石本麻友子、島田裕之 要介護高齢者の運動機能と運動FIMとの関連 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月27日
- ・ 堤本広大、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、吉田大輔、上村一貴、阿南祐也、大矢敏久、鈴木隆雄 活力低下(exhaustion)を有する高齢者における歩行の質的变化 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月27日
- ・ 石本麻友子、鈴木芽久美、波戸真之介、林悠太、島田裕之 様々な環境条件下での移乗動作自立に影響を与える因子 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月27日
- ・ 吉田大輔、島田裕之、阿南祐也、牧迫飛雄馬、土井剛彦、堤本広大、上村一貴、鈴木隆雄 肥満を伴ったサルコペニアは歩行機能と強く関連するか 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月27日
- ・ 波戸真之介、鈴木芽久美、林悠太、石本麻友子、島田裕之 要支援者と要介護者間の心身機能の比較 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月25日
- ・ 吉松竜貴、吉田大輔、島田裕之、小松泰貴 地域在住高齢者における皮下脂肪厚・筋厚と近赤外光吸光度との関連について 第47回日本理学療法学術大会、神戸、2012年5月25日
- ・ 神崎恒一 (シンポジウム) サルコペニアと転倒 第12回抗加齢医学会総会、横浜、2012.6.22
- ・ 長谷川浩、永井久美子、塚原大輔、井上慎一郎、竹下実希、長田正史、佐藤道子、神崎恒一、鳥羽研二 中高年における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果(9年次報告) 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012.6.28
- ・ 山田思鶴、小川純人、矢加部満隆、山口潔、神崎恒一、鳥羽研二、秋下雅弘、大内慰義 地域在住高齢者における会議予防指標と転倒予防教室参加意欲との関連性 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012.6.28
- ・ 田中政道、長谷川浩、須藤紀子、永井久美子、神崎恒一 高齢外来通院患者における虚弱スケールの臨床的意義に関する検討 第54回日本老年医学会学術集会、東京、2012.6.29
- ・ 神崎恒一、金信敬 高齢者の転倒予防について 三鷹市老人クラブ連合会講演、三鷹、2012.9.21.

- Koichi Kozaki. Frailty in older people.
8th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society ,
Brussels, Belgium, 2012. 9. 27
- 神崎恒一 サルコペニアと転倒 第10回
埼玉整形外科トピック・リエゾンセミナー、さいたま、2012. 10. 11
- 神崎恒一 サルコペニアと転倒 第8回
加齢医学研究会、名古屋、2013. 1. 19
- 神崎恒一 認知症と転倒 第16回認知
症を語る会、東京、2013. 2. 23
- 金信敬、石黒友康 太極拳的「気らく運動」によるサルコペニア予防効果 第54
回日本老年医学会学術大会、東京、6月
29日-7月1日、2012

H. 知的財産の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

【平成22年度】

著者・発表者氏名	タイトル名	書籍・雑誌名	ページ	出版年
Atsushi Harada, Yukihiro Matsuyama, Tetsuo Nakano, Masao Deguchi, Shigeyuki Kuratsu, et al.	Nationwide survey of current medical practices for hospitalized elderly with spine fractures in Japan.	J Orthop Sci	15: 79-85	2010
Hiroshi Hagino, Keizo Sakamoto, Atsushi Harada, Toshitaka Nakamura, Yoshiteru Mutou, et al.	Nationwide one-decade survey of hip fractures in Japan.	J Orthop Sci	15: 737-745	2010
Chikako Kato, Kunio Ida, Minoru Hoshiyama, Atsushi Harada.	Does fall-related self- efficacy in hip-protector users affect quality of life and physical activity in nursing homes in Japan?	J Am Geriatr Soc	58: 1810-1812	2010
原田敦、飛田哲朗、 奥泉宏康	サルコペニアに対する臨床的 アプローチ	Geriatric Medicine	48(2): 217-229	2010
鈴木隆雄、島田裕 之、原田敦、井藤英 喜.	サルコペニア - 研究の現状と 臨床への応用	Geriatric Medicine	48(2): 241-259	2010
上西一弘、田中司 朗、石田裕美、細井 孝之、大橋靖雄、門 脇孝、折茂肇	牛乳・乳製品摂取とメタボ リックシンドロームに関する 横断的研究	日本栄養・食糧学会 誌	63(4): 151-159	2010
Masataka Shiraki, Yasushi Yamazaki, Yumiko Shiraki, Takayuki Hosoi, Naoko Tsugawa, Toshio Okano	High level of serum undercarboxylated osteocalcin in patients with incident fractures during bisphosphonate treatment	J Bone Miner Metab	28(7): 578-584	2010
Takayuki Hosoi	Genetic aspects of osteoporosis	J Bone Miner Metab	28(7): 601-607	2010
Masataka Shiraki, Tatsuhiko Kuroda, Nobuaki Miyakawa, Naohito Fujinawa, Kazumasa Tanzawa, Akiko Ishizuka, Shiro Tanaka, Yukari Tanaka, Takayuki Hosoi, et al.	Design of a pragmatic approach to evaluate the effectiveness of concurrent treatment for the prevention of osteoporotic fractures	J Bone Miner Metab	29(7): 37-43	2011

Shiro Tanaka, Noriko Yoshimura, Tatsuhiko Kuroda, <u>Takayuki Hosoi</u> , Mitsuru Saito, Masataka Shiraki	The Fracture and Immobilization Score(FRISC) for risk assessment of osteoporotic Fracture and immobilization in postmenopausal women-A joint analysis of the Nagano, Miyama, and Taiji Cohorts	Bone	47(7): 1064-1070	2010
Natsuko Sogabe, Rieko Maruyama, Otto Baba, <u>Takayuki Hosoi</u> , Masae Goseki-Sone	Effects of long-term vitamin K1 (phylloquinone) or vitamin K2 (menaquinone-4) supplementation on body composition and serum parameters in rats	Bone	48(5): 1036-42	2011
竹村真里枝、松井康素、原田教、安藤富士子、下方浩史	一般住民における動脈硬化と骨粗鬆症の関連	Osteoporosis Japan	18(2): 228-231	2010
下方浩史、安藤富士子	運動器疾患の長期縦断疫学研究. ロコモティブシンドローム -運動器科学の新時代	医学のあゆみ	235(5): 319-324	2011
下方浩史、安藤富士子	疾病予防のための理想的な生活. 生活習慣改善による疾病予防-EVIDENSを求めて	成人病と生活習慣病	40(9): 1026-1031	2010
下方浩史、安藤富士子	運動器疾患の長期縦断疫学研究. ロコモティブシンドロームと生活習慣病	Progress in Medicine	30(12): 3021-3024	2010
Doyo W, Kozakai R, Kim H-Y, Ando F, <u>Shimokata H</u>	Spatio-temporal components of the three-dimensional gait analysis of community-dwelling middle-aged and elderly Japanese: age- and sex-related differences	Geriatr Gerontol Int	11(1): 39-49	2011
Suzuki Y, Nakayama K, <u>Hashimoto N</u> , Yazawa I	Proteolytic processing regulates pathological accumulation in dentatorubral-pallidolusian atrophy	FEBS J.	27: 4873-4887	2010
Yanagisawa M, Mukai A, Shiomi K, Song SY, <u>Hashimoto N</u>	Community effect triggers terminal differentiation of myogenic cells derived from muscle satellite cells by quenching Smad signaling	Exp. Cell Res.	317: 221-233	2011
Fukai S, <u>Akishita M</u> , Yamada S, Ogawa S, Yamaguchi K, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y	Plasma sex hormone levels and mortality in disabled older men and women.	Geriatr Gerontol Int.	10-Dec head of print	2010
Nagai K, Kozaki K, Sonohara K, <u>Akishita M</u> , Toba K	Relationship between interleukin-6 and cerebral deep white matter and periventricular hyperintensity in elderly women.	Geriatr Gerontol Int.	25-Jan Epub ahead of print	2011

<u>Akishita M</u> , Arai H, Arai H, Inamatsu T, Kuzuya M, Suzuki Y, Teramoto S, Mizukami K, Morimoto S, Toba K; Working Group on Guidelines for Medical Treatment and its Safety in the Elderly.	Survey on geriatricians' experiences of adverse drug reactions caused by potentially inappropriate medications: Commission report of the Japan Geriatrics Society.	Geriatr Gerontol Int.	11: 3-7	2011
<u>Akishita M</u> .	Strict vs. mild blood pressure control in the elderly.	Hypertens Res	33: 1102-1103	2011
Nomura K, Eto M, Kojima T, Ogawa S, Iijima K, Nakamura T, Araki A, <u>Akishita M</u> , Ouchi Y	Visceral fat accumulation and metabolic risk factor clustering in older adults.	J Am Geriatr Soc	58: 1658-1663	2010
Fukai S, <u>Akishita M</u> , Yamada S, Toba K, Ouchi Y	Effects of testosterone in older men with mild-to-moderate cognitive impairment.	J Am Geriatr Soc.	58: 1419-1421	2010
Yamada S, <u>Akishita M</u> , Fukai S, Ogawa S, Yamaguchi K, Matsuyama J, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y	Effects of dehydroepiandrosterone supplementation on cognitive function and activities of daily living in older women with mild to moderate cognitive impairment	Geriatr Gerontol Int.	10:280-287	2010
Urata Y, Goto S, Kawakatsu M, Yodoi J, Eto M, <u>Akishita M</u>	DHEA attenuates PDGF-induced phenotypic proliferation of vascular smooth muscle A7r5 cells through redox regulation.	Biochem Biophys Res Commun.	396:489-494	2010
<u>Akishita M</u> , Fukai S, Hashimoto M, Kameyama Y, Nomura K, Nakamura T, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y	Association of low testosterone with metabolic syndrome and its components in middle-aged Japanese men.	Hypertens Res.	33: 587-591	2010
Yu J, <u>Akishita M</u> , Eto M, Ogawa S, Son BK, Kato S, Ouchi Y, Okabe T	Androgen receptor-dependent activation of endothelial nitric oxide synthase in vascular endothelial cells: Role of PI3-kinase/Akt pathway.	Endocrinology.	151: 1822-1828	2010